

第 11 回日韓中環境創造型農業交流会議
第 5 回日韓田んぼの生きもの調査交流会
第 4 回コウノトリ未来・国際かいぎ

— 第 1 回生物の多様性を育む農業国際会議 —

International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture (ICEBA2010)

開催のご案内

21 世紀は環境の時代といわれ、世界的規模で経済のしくみや農業のあり方が根本から問い直される時代です。環境や農業を無視した経済成長を最優先する政策がまだまだ優位を占めていますが、東アジア各国においても、この人類史的課題に向けた農業分野の共同の取り組みが行われてきました。

2000 年に韓国で開催された「日韓中環境創造型稲作技術会議」は今年で 11 回目を迎え、「日韓田んぼの生きもの調査交流会」も 5 回目を迎えます。今後は地域づくりを含めた新たな展開をめざすため、2 つの会議を統合し「生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA)」として新たにスタートすることとなり、本年 7 月に第 1 回目の会議を兵庫県豊岡市で開催いたします。

これまでの技術交流会議と生きもの調査交流会では、各国の水田農業が直面している課題が明らかになってきましたが、今年は報告・交流だけではなく共通のテーマを定め、年間を通じた共同活動のなかでその成果を持ち寄り、方向性を見いだす意義あるものにしたいと考えています。

課題とするテーマは、①生物の多様性を育む農業技術の探求、②生物多様性農業と生きもの調査活動、③生物多様性農業を支えるむら・人・仕事の再生としており、各国で継続的な研究・実践活動を行うとともに、地域づくりを含めた幅広い内容にしていきたいと思えます。

また、会議において見出された方向性を報告書にまとめ、カルタヘナ議定書締約国会議 (名古屋 10 月 11~15 日)、生物多様性条約締約国会議 COP10 (名古屋 10 月 18~29 日) に提言したいと考えております。この取り組みは環境の時代を真正面から受け止め、真摯にその解決を希求する諸団体がそれぞれの力を合わせなければ成功できないものと信じています。

つきましては、別紙の会議開催要項 (案) をご参照のうえ、実行委員会若しくは協賛団体又は参加団体として、積極的にご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、実行委員会は財政的負担を含めた参加とし、協賛団体は広告掲載等での支援を、参加団体は所属会員等に会議への積極的な参加を呼びかけていただく団体として位置づけています。いずれかの立場でのご支援いただきますようご案内申し上げます。

2010年 4月 1日

生物の多様性を育む農業国際会議

実行委員会委員長	保 田 茂
	稲 葉 光 國
	岩 渕 茂 紀
	原 耕 造

実行委員会

兵庫県、豊岡市、たじま農業協同組合、NPO 法人民間稲作研究所、NPO 法人田んぼ、NPO 法人生物多様性農業支援センター、NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本、NPO 法人全国有機農業推進協議会、NPO 法人有機農業技術会議、NPO 法人兵庫県有機農業研究会、NPO 法人アイフォーム・ジャパン、株式会社アレフ、パルシステム生活協同組合連合会、有限会社日本の稲作を守る会、NPO 法人秀明自然農法ネットワーク、社団法人全国愛農会、日本自然農業協会、社団法人農山漁村文化協会、日本雁を保護する会

第11回日韓中環境創造型農業交流会議
第5回日韓田んぼの生きもの調査交流会
第4回コウノトリ未来・国際かいぎ

— 第1回生物の多様性を育む農業国際会議開催要項 —

International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture (ICEBA2010)

2010年に兵庫県豊岡市で開催されることになった第11回日韓中環境創造型稲作技術交流会議と第5回日韓田んぼの生きもの調査交流会は、豊岡市が開催する第4回コウノトリ未来・国際かいぎ（10月30～31日）と連携し、その分科会の重要な一部として開催し、併せてカルタヘナ議定書締約国会合（名古屋10月11～15日）、生物多様性条約第10回締約国会議（名古屋10月18～29日）への農業分野からの提言を行うという位置づけで、新たに「第1回生物の多様性を育む農業国際会議として開催します。

これまでの技術交流会議と生きもの調査交流で各国の水田農業が直面している課題が明らかになってきましたが、今年は報告・交流だけではなく共通テーマを定め、年間を通じた共同活動のなかでその成果を持ち寄り、今後の方向性を見出す意義あるものにしたいと考えています。

課題とするテーマは、①生物の多様性を育む農業技術の探求、②生物多様性農業と生きもの調査活動、③生物多様性農業を支えるむら・人・仕事の再生としており、各国で継続的な研究実践活動を行い、地域づくりを含む幅広い内容にしていきたいと思えます。

- 1 開催テーマ 生物の多様性を育む農業をめざして
- 2 主催団体 豊岡市・兵庫県・第1回生物の多様性を育む農業国際会議実行委員会
- 3 開催日程

第1回実行委員会	2010年	2月	22日	(月)
育苗・抑草・環境	2010年	3月	20日	(土)
抑草・生き物調査	2010年	4月	27日	(火)
農法別生き物調査	2010年	6月	5日	(土)
CBD提言書起草委員会	2010年	6月	19日	(土)
第1回国際会議	2010年	7月	2日	(金)～4日(日)
- 4 開催場所 豊岡市民会館、じばさんTAJIMA、兵庫県立コウノトリの郷公園
- 5 実行委員会及び協賛・参加団体
 - 日本 兵庫県、豊岡市、たじま農業協同組合、NPO法人民間稲作研究所、NPO法人田んぼ、NPO法人生物多様性農業支援センター、NPO法人ラムサール・ネットワーク日本、日本雁を保護する会、NPO法人全国有機農業推進協議会、NPO法人有機農業技術会議、NPO法人兵庫県有機農業研究会、NPO法人アイフォーム・ジャパン、株式会社アレフ、パルシステム生活協同組合連合会、有限会社日本の稲作を守る会、NPO法人秀明自然農法ネットワーク、社団法人全国愛農会、日本自然農業協会、NPO法人メダカのがっこう、財団法人日本野鳥の会、生活協同組合連合会コープ自然派事業連合、社団法人農山漁村文化協会
 - 韓国 iCOOP 消費者生活協同組合連合会、韓国環境農業団体連合会、水田湿地ネットワーク、韓国BMW協会、蔚珍郡、楊平郡

以下交渉中

NPO法人日本有機農業研究会、全国アイガモ水稻会、日本BMW協会、ネットワーク21、生活クラブ生協、東都生協、日生協、株式会社大地を守る会、らでいっしゅぼーや株式会社、ビオマーケット、有機認証団体、地方自治体（予定）

 - 韓国 韓国自然農業協会、韓国正農会、アマガエル生産組合
 - 中国 延辺自治州 雲南自治州、中国生物多様性農業センター（予定）

海外団体 FAO アクアカルチャー、IFOAM（予定）
- 6 後援団体 農林水産省・環境省・国土交通省・外務省・文部科学省（予定）
- 7 参加人数 400名（海外80、地元200、県外120）
- 8 参加費 3,000円（資料代・大会経費）

会議日程案

第1日 7月2日(金) (兵庫県立コウノトリの郷公園)

- 13:00 受付・オリエンテーション
 13:30 生物の多様性を育む農業現地研修会
 有機・特裁・慣行田における生きもの調査
 日韓田んぼの生きもの調査交流会
 17:00 現地研修・調査終了

第2日 7月3日(土) (豊岡市民会館)

- 9:00 基調講演 「生き物と共に歩む21世紀の農業と地域経済」
 豊岡市長 中貝 宗治
 9:30 各国報告 「韓国における有機農業と生物多様性」
 韓国有機農業学会長 金 種淑 (キム・ジョンスク)
 各国報告 「中国鎮江市における有機農業の取組み」
 元鎮江市農業科学研究所長 趙 亜夫 (チョウ・アフ)
 10:30 休憩
 10:45 基調報告1 「生物多様性農法の発展と新たな課題」 稲葉 光國
 11:15 基調報告2 「生物多様性農法と生きもの調査結果」 岩渕 成紀
 11:45 基調報告3 「環境創造型農業による地域の再生」(仮題) 保田 茂
 12:15 昼食
 13:30 分科会 (豊岡市民会館、じばさん TAJIMA)

分科会 I	テーマ「有機農業と生物多様性に関する技術問題」 コーディネーター 稲葉光國・姫野祐子 スピーカー 日本 成田市雄 (農業者 兵庫県豊岡市) BMW協会 NPO法人民間稲作研究所 韓国 朱 斑山 (ジュ・ジョンサン) (プルム生協生産者) 中国 金 吉沫 (キム・ギルス) (図們市農業改良普及所長)
分科会 II	テーマ「生物多様性農業と生きもの調査」 コーディネーター 岩渕成紀・金 亨美 (キム・ヒョンミ) スピーカー 日本 斉藤 肇 (専業農家 宮城県大崎市) 古谷愛子 (NPO法人オリザ・ネット 埼玉県越谷市) 豊岡農業改良普及センター 韓国 李 昭映 (イ・ソヨン) (洪城田んぼの生き物調査チーム) 梁 桐祐 (ヤン・ドンウ) (亞洲大學校 生命科學科) 中国 Dr. Pavlos Georgiadis
分科会 III	テーマ「生物多様性農業を支えるむら・ひと・仕事の再生」 コーディネーター 保田 茂・金 種淑 (キム・ジョンスク) スピーカー 日本 斉藤慎一郎 (農業者 新潟県佐渡市) 根岸謙次 (農業者 兵庫県豊岡市) JAたじま (コウノトリ育む農法) 韓国 李 漢寅 (イ・ハニン) (慶尚南道峰下村田の世上代表) 中国 潘 耀平 (ハン・ヨウヘイ) (研究員 元鎮江市農業科学研究所長)

- 18:00 終了
 19:00~21:00 夕食・交流会

第3日 7月4日(日) (豊岡市民会館)

- 9:00 分科会報告
 9:40 総合討論 生物多様性締約国会議への提言
 11:00 閉会 ①宣言・アピール
 ②次期開催国(韓国)からの特別報告
 12:00 全日程終了
 13:00~17:00 オプション行事 コウノトリ・グリーンツーリズムなど